

園芸科学科2年生 QCサークル大会で 廃棄果実の商品化などの取組を発表

業務改善へ活動 高山で発表大会

高校生も参加

業務改善を目的に多くの企業内で組織されている「QCサークル」が取り組みを発表する「小集団改善活動 飛騨高山大会」が、高山市昭和町の市民文化会館であった。県内5企業のほか、地元の飛騨高山高校園芸科学科の生徒も加わった。

QCサークルは全国に6万以上、県内に約1300団体ある。同大会は毎年実施しており、今回はオンライン参加も合わせて約120人が耳を傾けた。

飛騨高山高は、校内の果樹園で出た廃棄フドウの商品化などを紹介。2年の谷美咲さん(17)と松井茉莉さ



リンゴ栽培で試した作業の省力化について発表する谷さん(左)と松井さん(右) 高山市昭和町で

ん(16)が登壇し、コロナ禍でペット商品の需要が高まっているとの調査結果に基づき、廃棄する果実で餌用のドライフルーツを開発したと説明した。

5企業のうち、自動車などの防振ゴムを製造する佐橋工業金山工場(下呂市)が、最高賞の高山市長賞を受賞した。(松沢侑香)